

農作物技術情報 第9号 花き

発行日 平成30年11月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ 降雪に備えてハウスや被覆資材の点検、補修を行いましょ。
- ◆ ハウスの屋根や側面に堆積した雪は早めに除雪しましょ。
- ◆ 適切な温度管理を行いましょ。

《冬期間のハウス管理について》

1 リンどう

促成・半促成栽培では、予めハウス部材や被覆ビニールの損傷等を点検・補修します。古い屋根ビニールは、透光性が低下するほか、雪のすべりが悪くなるので定期的に交換します。

被覆方法は、外ビニール、内張りカーテン、トンネル（シルバーまたはポリ。両者を組み合わせる例もある）の3～4重被覆とし、さらに地温を高めるために黒マルチ被覆を行うのが一般的です。

被覆後、降雪が続く場合は早めに除雪しますが、とくに屋根から落ちた雪が側面に堆積して強い圧力がかかることがあるので留意します。

温度管理は、草丈が30cm以上に達し側芽が見え始める頃までは夜温8℃を確保します。一方、日中は25℃を越えないよう換気します。とくに晴天時はトンネル内の気温が急激に上昇するので早めに被覆資材を開放します。

2 小ぎく

伏せ込みハウスの温度管理については、日中25℃を越えないよう換気に留意します。夜間は1～5℃の凍らない温度で管理します。一般にきく類は寒さに強いと言われますが、極端な低温では図のような凍寒害を生じます。低温が予想される場合は、不織布のべたがけ等で対策します。

また、株やかき芽苗で伏せ込んだ場合、茎葉が繁茂することがあります。その際は、12月中旬～下旬に台刈りをして株の若返りを図ります。



図1 小ぎく採穂用親株の凍寒害①
・葉の内部が凍結して膨張したため、解凍後に表皮が波打った状態となる



図2 小ぎく採穂用親株の凍寒害②
・凍寒害の症状が強い場合は、表皮のはく離や裂傷を生じる

農作物技術情報の本年度定期発行は今号で終了となりますが、気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。